

JSR 株式会社

2024 年 3 月期第 1 四半期決算説明電話会議 議事録

(2023 年 8 月 7 日開催)

決算補足資料:

https://ssl4.eir-parts.net/doc/4185/ir_material_for_fiscal_ym/139410/00.pdf

P3 全体サマリー :

- FY23Q1 実績は対前年減収減益でコア営業利益赤字。LS の一過性の特殊要因が背景。SEMI は半導体サイクルの底の影響を受けた。その他は全体でほぼ想定内。Q1 の赤字そのものは想定内、Q2 以降の黒字と対前年大幅な増益見込みに変更なし。
- FY23 業績予想は今回見直しを実施せず。Q2 は特殊要因がなくなり黒字化を含め各事業にて大幅な利益回復を見込む。SEMI は Q2 より需要は徐々に回復。来年に向けて本格回復を見込む。当社シェアは EUV の先端領域であるロジック 3nm 以下、及び DRAM 分野で順調に拡大。MOR も開発状況は良好。需要低迷下においても EUV は Q1 で YoY 25%増加。DISP は FY22 後半の大幅な需要調整以降、回復傾向が続く。LS の一時的要因は Q2 では解消。更に CDMO の稼働拡大も続く見通し。利益率向上に向けた収益改善プロジェクトも推進中。
- JIC（産業革新投資機構）グループによる当社株式の公開買付けの開始予定について発表。12 月頃の TOB 開始を予定。戦略的方向性が一致する JICC との戦略的パートナーシップにより、非公開化の上、戦略推進を加速するとともに、半導体材料業界の再編を機動的に推進。国際競争力と全事業の中長期的な成長力の強化を目指す。現時点、国内外の競争法を含む関連規制に基づく手続きを問題なく進行中。株主、グローバルな顧客、従業員、パートナー含め全てのステークホルダーにとって最善の選択肢になると期待。

P4 決算のポイント : FY23Q1 実績

(YoY コア営業利益) YoY 減収減益。

DS : -50 億円の減益。対前年との需要差影響。昨年度は半導体需要に一部不透明感が出つつも全体では堅調。今回半導体の環境が大幅悪化。

LS : 一時的要因で CDMO にて約 45 億円の損失計上。計画内ではあるがコロラド工場の大規模修繕を実施、在庫評価の引当金等の計上影響。

PLA : 需要は対前年回復。

(QoQ コア営業利益) QoQ 減収減益

DS : 増収増益。SEMI、DISP ともに増収増益。SEMI の需要環境は Q1 においても底継続も前 QoQ では売上改善。EUV は確実に進捗している。

LS : 一時的要因の約 45 億円を除く-41 億円はほぼ IVD 事業の検査キットの要因。前 Q4 の販売が当 Q1 はゼロ。純粋な販売タイミング。今年度の検査キットは計画通り下期に見込む。これら除き CDMO は

KBIの工場立上げ進展で増益。

PLA：需要は回復基調も受払差等により減益。

全社で対前年大幅減益であるが QoQ では一部要因除き回復方向、Q2 以降も確実な回復を想定。

P5 決算ハイライト YoY, QoQ

(YoY) 減収減益、(QoQ) 減収減益

YoY については前述のとおり。QoQ で全社については LS 要因で大幅減益となったが、DS で増収増益の回復方向、LS も特殊要因及び IVD の検査キットの販売タイミング除けばほぼフラット。

P6 セグメント別損益：デジタルソリューション事業

(YoY) 減収減益

SEMI で 14%の減収。当社材料需要のベースとなるシリコンウエハインプットは-15%超の減少。DISP、EC も需要要因による販売減。需要低迷下、コストは計画対比抑制で推移。一方、グラフに記載のとおり将来に向けた先行投資は実行した。

P7 デジタルソリューション事業：主要製品売上推移

EUV が YoY で +25%の売上増を達成。QoQ-35%と減少しているが、前 Q にライセンス収入等収益がまとめて発生した影響。実数量ベースでは QoQ でも増加した。

P8 セグメント別損益 ライフサイエンス事業

(YoY) 減収減益。

- ・前述の特殊要因。
- ・CDMO は+10%成長も主力工場の一つであるコロラド工場の大規模修繕により当工場からの販売は大幅に減少。受注状況は問題なく Q2 以降に売上回復を見込む。CRO は需要環境が想定より弱い。BPM、IVD の減収はタイミング差の影響で年度では計画通り。

(QoQ) 減収減益

- ・主に大規模修繕と IVD 検査キットの販売タイミングによる減収。減益は特殊要因。

P9 セグメント損益 合成樹脂事業

(YoY)減収増益

- ・主要顧客業界である自動車産業は復調継続もまだ需要回復途上。販売価格の改定に努めマージンは改善しているが、今後の更なる数量回復により収益性の改善を見込む。

(QoQ)減収減益

- ・販売量は回復基調。ナフサ等の原料価格が下落方向で、原料価格に応じてスライドする顧客との価格フォーマーミラの影響でマージンは縮小した。その他会計要因による短期影響。

P10 実績 vsFY23 計画（変更なし）

FY23 の計画である売上収益 4,420 億円、コア営業利益 420 億円の今回変更なし。通期目標達成、更に来期の持続的な成長へ向け取り組みを強化していく。

(DS)

- ・売上進捗は 22%。SEMI の想定以上の需要回復遅れの影響。一方当初より下期型の事業計画であり今後の挽回を見込む。SEMI の需要そのものは、当社にはコントロールできないが、EUV 等の先端分野のシェアは拡大しており、市場を上回る成長を達成する。当社主力製品におけるマーケットシェアは良好。
- ・コスト抑制の継続に加え、一部事業の見直し等構造面の強化にも取り組む。EUV/MOR、又アジア地区での販売・技術サービス強化等の将来投資はしっかりと進める。

(LS)

- ・一過性要因を除き全体では進捗は想定内。
- ・CDMO の KBI の稼働は順調。需要面も堅調。ノールカロライナの新工場も順調。
- ・CRO の顧客である開発ベンチャーは一部需要が減速。計画を下回る水準。一方足元の受注状況は改善方向であり Q2 以降の回復を見込む。
- ・KBI で実施中の収益改善プロジェクトは実行しており、今後の新工場の稼働拡大によるトップライン向上と利益率改善を同時に達成する見通し。その他 LS 事業全体においてもコスト抑制、事業の見直し等の構造改革を進めている。

(PLA)

- ・需要は明確に回復方向。燃料費高騰に対する価格改定の取組も強化。Q2 に効果を見込む。

P11 通期業績予想（再掲）

- ・今期は SEMI の需要調整局面下、FY24 の V 字回復への弾込め期間と位置づけ、各事業の収益力強化に努めている。

P12 業績見通しに関する市場前提

- ・SEMI 需要の目安となるシリコンウエハインプットは今期-5%を想定するも、Q1 は大幅に落ち込んだ。確実に Q1 を底に Q2 以降の回復を見込むが、当面は全般に力強さには欠ける状況は続く。状況は注視必要。FY24 は力強い成長を見込む。
- ・DISP の主要顧客である FPD パネルメーカーの稼働状況は、昨年度後半を底に、当初想定を上回る回復を見せている。Q2 も好調に推移する見通し。
- ・自動車生産は、半導体不足の解消を受けて回復基調が継続。当社 PLA 需要にも波及する見通し。
- ・バイオ医薬品市場は、前述の一部での停滞はあるも全般には堅調。

P13 ライフサイエンス事業（CDMO） KBI 新工場 生産計画の進捗

- ・棒グラフは各 Q に開始された生産バッチ数を表す、折れ線は生産能力。
- ・現有生産能力を大幅に増加させるノースカロライナ新工場が昨年度後半より商業生産を開始。前 Q に続き Q1 も稼働は好調。前 Q より若干バッチ数は減ったがプロダクト 2 という新製品の生産も行ったため。Q2 は更に稼働を拡大。年度後半に向けフル稼働を見込む。現時点では、通期で計画を上回るペースでの稼働を見込む。
- ・KBI 全体で収益改善プロジェクトを推進中。CDMO はバイオ医薬品の開発生産受託業であり、人的資本が重要になると同時に多くの要員が必要となりコスト面では収益性に直結する。必要な人的資本をしっかりと確保しつつ効率的に稼働を拡大させていくことで収益性の向上を図る。

【表記注記】

デジタルソリューション：DS

半導体材料事業：SEMI

ディスプレイ材料事業：DISP

エッジコンピューティング：EC

ライフサイエンス：LS

合成樹脂：PLA

以上